

ユーザー訪問 スギヤマ調剤薬局 高見店 (愛知県名古屋市)

優れた費用対効果や簡単な操作性なども「ミスゼロ子」の大きなメリット

東海地方で調剤薬局やドラッグストアをチェーン展開するスギヤマ薬品では、調剤過誤を防止するクカメディカルの薬剤バーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を2005年から導入。調剤過誤の減少のみならず、優れた費用対効果や簡単な操作性なども「ミスゼロ子」の大きなメリットだとしている。

幅広い診療科目に対応

東海地方でいち早く調剤薬局をチェーンとしてスタートさせた(株)スギヤマ薬品(代表取締役社長:杉山貞之氏、本社:名古屋市千種区)。調剤薬局のほか、ドラッグストア、調剤併設型ドラッグストア、薬粧専門店の4業態で店舗展開し、2015年2月末現在、愛知・岐阜・三重県下で121店舗を数えるまでになった。

その1つ、スギヤマ調剤薬局高見店は、総合病院前で1992年に開局。処方箋応需数は1日200~300枚。門前の病院からの処方箋が約9割を占めるが、1割は120を超える医療機関から発行されるものだという。備蓄している医薬品は約2100品目。後発医薬品割合(数量ベース)63%。薬剤師13人、事務員5人のスタッフ構成となっている。

「当薬局が位置する高見は古くからの住宅地区で、幅広い年齢層の患者様が来局されます。門前の総合病院は27の診療科目があり、心臓・脳血管疾患やがんの治療にも注力しています。どの科目の処方でも対応するために、幅広い知識を身に付ける

の必要があり、留意すべき情報については毎月1回文書でまとめ、スタッフ間での共有化を図っています」と同店店長の山田氏は話す。

広い調剤室を備えているスギヤマ調剤薬局高見店(左)とスタッフの皆さん(右端が伊藤氏)



ハンディ端末で薬剤バーコードを読み取るだけという簡単な操作性が特長の1つ

安全性と効率性を両立する「ミスゼロ子」

スギヤマ薬品では、調剤過誤防止に対する意識を古くから高めていたが、「経験や努力だけでは防げない」と認識するようになった。そこに登場したのが、調剤過誤防止を安全面から訴求した薬剤バーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」だった。導入当時の状況を同社薬事本部運営部調剤ブロック長(薬剤師)の伊藤氏はこう明かす。

「調剤過誤を防ぐコンピュータ管理システムを待ちわびていました。そうした中で登場した『ミスゼロ子』を検討した結果、安全性と効率性を両立するシステムと判断。2005年から導入を始め、現在、高見店のほか9店舗に設置しています」

その効果は大きく、取り間違いや規格違いはなくなったという。「ミスゼロ子使用による時間的ロスはなく、調剤ミスを防いでくれるという安心感から、服薬指導に注力できることも大きなメリットです。高見店は一般名処方が増えてきて、一般名を含む処方箋が3分の2を占めるようになってきました。製品名や一般名が混在する中、『ミスゼロ子』の有用性はさらに高まったと感じています。また、高見店はバーコードを読み取るハンディ端末の台数が多いのも特徴で、実務実習で活用する場面も多く、指導を受ける学生の調剤をフォローするだけでなく、指導薬剤師の負担を軽減することも可能なシステムです」と山田氏は指摘する。

今年7月、薬剤バーコードはJANコードからGS1-RSSコードに完全移行する。「ミスゼロ子」はPTPシート1枚ごとに付いているGS1-RSSコードを読むことから、「薬剤の戻し間違いも防止することができる」(伊藤氏)。

さらに伊藤氏は「ミスゼロ子」の特長として、「省スペース、簡単な操作性、安全性・効率性の確保に対する優れた費用対効果」などを挙げ、薬剤師が少ない店舗とともに処方箋応需数が多い店舗に特に有用と分析している。

